



2011年

1月

新年あけまして
おめでとうございます



イコバ

あおぞらビル一階に交流スペースが誕生しました。地域住民が憩える場、行こうと思う場にしたいと、「あおぞらイコバ」と名づけました。完成を記念して12月4日にオープニングイベントを開催しました。セレモニーのほか、ジャズのコンサートや写真家・藤井克己氏撮影の「幸せ発信コウノトリ写真展」と盛りだくさんの内容でした。イコバでは今後も地域住民のみなさんとのつながりを大切にしていきたいと思っています。近くまでお越しの際はお立ち寄りください。

●目次

特集 顔の見える国際交流

日中交流の展望 ～公害・環境問題の解決に向けて～	相川 泰	2
中国の環境NGO：李力氏、張亜東氏来日	鎗山善理子	4
どーなってるの？中国NPOが取り組む環境教育	林 美帆	6
海外からの視察・研修受け入れています	眞鍋麻衣子	7
〈中国からの手紙〉巨大な包装をまとった月餅	楊 緯 和	3
『生物多様性』？その危機って？	岡 秀郎	8
まちのお医者さんになろう	小平 智子	9
〈リレーエッセイ〉マイ・ソウルフード	森田 紗世	10
〈忙中一筆〉Never too late to learn	金 玲	12

特集 顔の見える国際交流

あおぞら財団では、韓国・中国をはじめ、アジアのみなさんと交流を積み重ねてきました。顔の見える関係づくりをめざした交流の取り組みの一部を紹介して、ご協力いただいている方の思いを報告します。

日中交流の展望 公害・環境問題の解決に向けて

相川 泰

公害・環境問題の解決に向けた日中交流は、今、転換期を迎えているのかも知れない。それは「経験を伝える」から「つながりの中でともに解決をはかる」への転換である。

日本のデモ映像にため息

従来の取り組みは主に、先に経済発展する過程で深刻な公害・環境問題を発生させた日本が、それを克服した経験を、後から似た過程をたどっている中国に伝えるものであった。しかし、技術面や法政策面はともかく、個々の問題解決の局面で、日本の経験は即効薬になるとは限らない。地方自治も裁判も中国では大きな力を持たないし、中国の環境活動家たちは、日本の公害反対運動のデモの映像を見て、中国では違法行為になるからできない、とため息をつく。日本の経験の試行錯誤の中に、中国の被害現場にとってもヒントになる

ことが多々あるはずだが、それを丹念に洗い出す作業は、日中どちら側にも十分に行なう余力はなさそうである。さらに、ある中国の環境汚染現場からは、日本の公害汚染克服が成功した話をいくら聞いても直面する問題の解決には結びつかない、との苦言さえ聞こえてきていることは、どう受け止めたらいだろうか。

よその国も問題ではなく

近年、中国の環境汚染の深刻さが国際的な関心を集めるのに伴って、中国国内では、それは単に中国一国のせいではなく、世界経済の中で中国が「工場」「市場」さらには「廃棄物の再資源化工場」の位置にあるからだ、という見方が出てきている。「中国の環境汚染がひどいというが、それは日本を含む世界各国が中国の汚染企業にモノを生産させ、それを買っているからではないか」、さら

には「先進国の有名企業も中国で環境汚染をしているからではないか」という指摘は、中国との交流で時おり耳にする。

本紙一一四号で紹介した住民たちが苦情を訴える上海・宝钢集団製鉄所の直近の拡張部分は、専ら日本向けの自動車用の板金を製造しているという話であった。工場側の説明を聞いたわけではないので真偽は未確認だが、もし住民たちの話が正しければ、あるいは「エコカー」として日本で売られている自動車の車体に使われている鉄板が、あの工場で生産され、周辺の住民を苦しめているのかも知れない……このように想像すると、決してよその国の問題ではなく、日本の私たちにも関わる問題として見えてくる。

それだけでなく、中国製品は私たちの身近にあふれている。それが中国で環境汚染を発生させることなく作られたかどうか、消費者が見て確認するのは難しい。しかし、全ては難しくても、一部について販売店や輸入業者、製造元に確認することは、していてもよいであろう。現に中国の環境NGOが「日本の有名企業の仕入先に中国の汚染企業がある」と指摘した例もあり、似たようなこ



ハルビン水泥廠にて

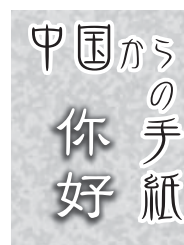
とが他にもあったとしても全く不思議はない。

つながりの中で ともに解決をはかる

他の国も含め、日本・中国は複雑につながっている。私たちが生活の中で気なく使っているモノが、そのつながりの中で生産や廃棄の過程でどこかで問題を発生させているかもしれない。今は世界的にその「どこか」が中国である確率が高くなっている。だから、中国の同じ問題関心を持つ人たちと交流し、ともに解決を図っていこう……。

この「つながりの中でともに解決をはかる」交流は、「経験を伝える」よりも理解を得やすいかも知れない。「経験を伝える」場合、「伝える」側と「伝えられる」側の立場は同じではなく、意に反して自慢話と受け取られる危険性もある。その点、「つながりの中でともに解決をはかる」は、今起きている同じ問題に対等な立場で、まさに自分たちの問題として取り組むので、相互理解が進みやすい交流になるのではないか。

(あいかわ やすし・鳥取環境大学
准教授)



巨大な包装をまとった月餅

北京市朝陽区環友科学技術研究中心

楊緯和
ヤン ウエイ ホ



包装と環境プログラム
担当者の楊氏

旧暦の八月十五日は中国伝統の祝日の中秋節である。この日には、どの家でも月餅を食べ、人々は月餅を贈りあって付き合いを深める。しかし近年、伝統的な月餅文化に変化がみられる。自分の送る月餅をより見栄えよくするために、人々は小さな月餅に巨大な包装をまとわせた。これでは資源、エネルギーを浪費するだけではなく、環境を汚染し、さらには人々の誤った消費観念を培うようになる。このため、中国政府は特別に国家規格を設定し、食品及び化粧品の過剰包装を制限したのである。



月餅箱：冰山の一角



極めて豪華な包装

規格実施後に初めて迎える中秋節、北京朝陽区にある環友科学技術研究中心は月餅の箱三百個を回収し検査した。結果によると、すべての月餅の包装は三重以内で、国家規格の定める規定に則していた。しかし、大部分の箱の隙間の比率が60%を超えている。この点に関して、政府は厳しく規制すべきである。さらに、月餅の箱による自然資源の浪費は大変深刻で、包装の重さがひと箱の月餅の重量の半分以上を占めており、月餅を食べた後、包装材が大変複雑且つ分解し難いために、包装の回収利用が非常に困難である。政府は今後、包装材の重量及び種類を制限して、単一の包装材の使用及びリサイクルしやすい包装方法を推奨すべきである。

(翻訳・巫覡
ウキ)

中国の環境 NGO：李力氏、張亞東氏 来日

2010年11月27日に開催した「日中環境問題サロン 2010：対話から築く
日中の環境教育の協働」(主催：あおぞら財団／共催：京エコロジーセンター) 参
加のために、中国から環境 NGO で活動するお二人を招へいしました。



リ
李力氏 (環友科学技術研究中心・会長／北京)
元・高校の教員。2006 年に「環友科学技術研究中心」
の前身の「環境友好公益協会」を民間の環境保護組織と
して設立。東アジア環境情報共有ネットワークの中国側の
責任者、中国の十数の民間環境保護組織の顧問などを務
める。環境教育、科学知識の普及と宣伝、環境劇場の指
導に関する書籍を多数出版。http://www.envirofriends.ngo.cn/



チャン ヤド
張亞東氏 (綠色龍江・総幹事／ハルビン)
ハルビン工業大学在学中から環境保護運動に参加し、松花
江の水質環境保護事業に関心を持つ。卒業後、綠色龍江
環境保護組織の総幹事として、住民参加、環境教育の運
動を展開。ロシア、モンゴルの NGO や専門家と協力し、
国境を越える河川の保護事業に中国側コーディネーターと
して参加。



西淀川高等学校にて模擬授業



西淀川公害患者と家族の会と懇談

●11月26日(金)

午後…西淀川区内見学、

大阪府立西淀川高等学校にて模擬授業

お昼過ぎ、関西国際空港に到着。その後、大
阪市西淀川区の国道43号と西淀川高等学校の環
境教育について見学。同校にて李力氏による環
境教育の模擬授業を区内の中学生(淀中学校生
徒会5人)と高校生(10人)が体験しました。

李氏は、地球温暖化のために枯れてしまった
木蓮の話と、生き別れになってしまった白クマ
の親子の話を紹介した後、生徒たちに「この話
を体を使って、演じてください」と呼びかけま
した。中学生と高校生は戸惑っていましたが、
李氏の要望にこたえようと、一生懸命、劇を演じ、
先生方も驚いていました。夜は、あおぞらビル
3Fのグリーンルームにて、歓迎会をひらきま
した。

●11月27日(土)

午前…京エコロジーセンターを見学

午後…「日中環境問題サロン2010：対話か

ら築く日中の環境教育の協働」にて報告

詳しくは次頁をご覧ください。

●11月28日(日)

午前…西淀川公害患者と家族の会と懇談(応対…

森脇君雄会長、永野千代子事務局長)

あおぞらビル5Fの西淀川・公害と環境資料
館(エコミュージズ)にて、大気汚染の写真やビ
デオを見た後、永野氏や森脇氏から公害反対運
動の取組みや、被害の実態について話がありま
した。森脇氏からは患者会の組織づくりについ
て、会員を集めていった経緯などが話されまし
た。

午後…㈱エイワット見学、藤永のぶ氏と懇談

(応対…柴田政明氏、藤永のぶ氏)

自然エネルギーの普及、コンサルティングを
おこなっているエイワットを訪問し、代表取締
役の柴田氏から国内外での事業について説明を
聞きました。藤永氏からは、市民による共同発
電システムの活動などについて熱く語られ、李
力氏ともすっかり意気投合の様子でした。

以上で、あおぞら財団主催のプログラムは終
了ですが、11月29日(月)には、李氏と張氏は
滋賀県の菜の花プロジェクトの視察に行きまし
た。3～4日間という短い期間でしたが、中国
から来ていただき、交流できたこと、うれし
く思います。ふりかえって、思うのは、人と人
との信頼関係がすべての基盤だということです。
その信頼関係の上に、日本と中国で、なんらか
の共同事業や取組みを実現させ、お互いの環境
問題の解決につなげていかなければならないと
思いました。

最後になりましたが、今回のプロジェクトで
は、金玲氏、王娜氏の二人に通訳として尽力い
ただきました。ありがとうございました。(金
玲氏は12面「忙中一筆」に登場しています)
※本事業は、平成22年度大気汚染経験情報発信
事業の一環です。

(鎗山善理子…あおぞら財団研究員)

日中環境問題「対話から築く日中の環境教育の協働」開催

■主催：あおぞら財団／共催：京エコロジーセンター

■日時：2010年11月27日（土）13:30～17:00

■場所：京エコロジーセンター

■プログラム：

〈中国からの報告〉

李力氏「環境教育から環境保護運動へ」

張亜東氏「松花江の環境保護と青年活動」

〈日本からの報告〉

岩松洋氏「無意識を意識する参加型学びの場づくり」（京エコロジーセンター事業課長）

林美帆氏「公害教育とESD（持続可能な開発のための教育）」（あおぞら財団研究員）

〈総合討論〉

「日中の環境教育の協働」コーディネーター 板倉豊氏（京都精華大学教授）



日本と中国の公害・環境問題に関する理解を互いに深めようという目的で、昨年11月「日中環境問題サロン2009」を開催しました。第2回目の今年度は「環境教育」をキーワードに、「対話から築く日中の環境教育の協働」と題して、11月27日、京エコロジーセンターにて開催しました。約50人の参加で、熱気あふれる会となりました。

13億人の力をあわせて

李氏は、教員を辞職して独自のNGO・環境友好公益協会を創設した経緯や、現在の環友科学技術研究中心の活動内容を紹介しました。日中韓3カ国の環境情報共有ネットワークの活動をはじめ、ゴミ問題、気候変動の問題など、幅広い活動を他のさまざまなNGOと連携しておこなっています。

さらに、他のNGOの活動を紹介することで、中国が抱える環境問題の深刻さと、その解決に向けて闘っている人々の存在を伝えました。汚染企業と闘う形から、最近では円卓会議で、解決に結びつけるスタイルへと変わってきた事例や、森林伐採に反対する活動家は自分の身を守るために、2年間ずつと枕の下に包丁を隠して眠っていた事例など、現場の生々しい様子がわかる内容でした。

「今、中国の環境問題はとても深刻ですが、中国には13億の人口がいるので、みんなが力をあわせて環境問題に取り組めば、きっといい方向に向かっていく」。李氏は力強い言葉で締めくくりました。

若い力で活動を推進

張氏は、大学卒業後すぐに環境保全の活動に身を投じた自身の活動や、中国の大学生ボランティアの活動について報告しました。黒竜江流域の生態保護や環境教育にとりくむNGO・緑色龍江は、黒竜江流域南岸の最大の支流である松花江の沿岸の工場による水質汚染問題への取り組みの他、モンゴルやロシアなど、他の国々とも連携した活動をおこなっています。大学生ボランティアが中心になって、松花江の環境を学ぶ教材を作成するなど、若い力で活動を推進している様子が語られました。

日中のそれぞれのやり方を融合

京エコロジーセンターは地球温暖化防止京都会議（COP3）の開催記念館として設立された環境学習の拠点施設です。岩松洋氏は、日本のODAで建てられた、日中友好環境保全センター（北京）の1階と地下を改装して、環境教育施設をつくるプロジェクトに参加しています。京エコロジーセンターでは「当事者意識」を大切にしており、ゴミ箱にゴミを捨てたり、電気のスイッチをつけたり、といった普段、無意識で行なっている行為を意識化させるためのプログラムや体験型の展示を提供しています。中国では、人びとの生活や考え方も日本とは違うので、日本のやり方をそのまま持つていっても、合わないかもしれないが、それぞれのやり方を融合させていきたいと、岩松氏は述べました。

公害問題から社会の矛盾を知る

林美帆氏は、大阪の西淀川大気汚染公害の歴史や、公害地域再生のための環境団体・あおぞら財団をつくった経緯、公害経験を伝えるための活動や学習プログラム、環境教材について紹介しました。地元の小・中・高校・大学などと連携して実施しているESD（持続可能な開発のための教育）の活動を通じて、子ども達とのコミュニケーションの力があがったことや昨年の夏からスタートした「公害地域の今を伝えるスタディツアー」の報告がありました。

「公害問題を知ることが、社会の矛盾を知ることでもある。自分たちは、そうした矛盾や問題を抱えている社会に生きていることを知り、解決してきた人たちの市民力に学ぶことが大事だと思って活動している」と林氏は述べました。

交流を深める

総合討論では、板倉豊氏のコーディネートで、4人の報告者がパネラーとして、「環境教育のめざすところ」、「NGOの果たす役割」という2つのテーマで意見交換を進めました。

日本と中国との協力関係という点では、中国の状況を日本国内で発信することの必要性や、中国の弁護士士の研修事業を日本で実施するといった具体的な提案がありました。

最後に板倉氏が、日本の失敗から得られる教訓をお互いに共有したり、中国の環境教育の実践から日本がその手法を学んだりして、日中で交流を深め、NGOどうしがつながっていくことが大事である、と述べて閉会しました。



上海万博の会場 スモッグが見えます

どーなってるの？ 中国NPOが取り組む環境教育

平成22年度大気汚染経験情報発信事業として、2010年8月28日から9月2日までの間、中国環境NPOとの交流、中国における公害被害地域の視察のため中国に訪問しました。この事業は我が国における公害経験やそれに関連する資料を中国側と共有するため、情報発信・人的交流を行なうものです。

年間200校で環境授業

上海では、上海市宝山区月浦鎮鋼集団公司による大気汚染の被害者許太生氏と上海根与芽青少年活動中心の鍾朕璽氏に話を聞きました。上海根与芽青少年活動中心は国際的なNPO団体であるRoot & Shootの上海支部です。年間600人のボランティアを育成して、200校で環境教



上海根与芽青少年活動中心 鍾朕璽氏



公衆と環境研究中心 馬軍氏

林 美帆

育の授業を、1学期の間（中国は2学期制なので半年になります）週1回45分の授業を14回程度行います。他にも緑色評価といって、学生が企業を訪問し、紙の資源、空調、割り箸、ストローの無駄つかいなどを調、評価をして報告書を書く活動もあります。これらのプログラムはスタッフが独自に考えました。

水汚染・大気汚染マップ

北京では公衆と環境研究中心の馬軍氏、中国政法大学公害被害者法律援助センター（CLAPV）の王燦發氏、戴仁輝氏、環境科学技術研究中心の楊緯和氏、綠色龍江の張亜東氏、日中友好環境保全センターの方々と会いました。

公衆と環境研究中心の馬軍氏の取り組み

は、各地方自治体のホームページで発表された汚染工場の情報を集めて、中国水汚染地図 (<http://www.ipe.org.cn/>) と中国大気汚染地図 (<http://air.ipe.org.cn/en/cvInfoEndo>) に情報を掲載するものです。中国はとても広いので、一つ一つ情報を集めるのはとても大変ですが、この地図に情報がまとまっていることでわかりやすくなっています。また、サプライチェーン（注）のネットワークを使って、大企業に汚染企業との取引をやめるように呼びかけて汚染を改善させたりしています。ぜひ皆さんもホームページをご覧ください。

アイデア豊富な中国NPO

中国のNPOはアイデア豊富で、活動している内容がとても面白かったです。日本と中国で活動交流をすることで、両国の環境活動が活発になるのではないかと思います。馬軍さんが「中国には資金も技術もある」とおっしゃっていたのが印象的です。日本でも公害はなぜ起こったのかというと、技術がなかったわけではなくて使わなかっただけの話です。市民が環境を監視することで、公害を防止することが求められているのだと思います。交流する中で市民力をお互いが高め、環境教育の力で公害を防止できればと思います。

（はやし みほ・あおぞら財団研究員）

（注）supply chain／供給連鎖 原材料の調達から生産、販売、物流を経て消費者に至る製品、サービス提供のために行われるビジネス諸活動の一連の流れのこと

海外からの視察・研修受け入れています

被害の側に立つ人になって欲しい

2010年7月5日、韓国から司法修習生がおおぞら財団に来ました。教官、通訳の方を入れて12人の参加です。

毎年韓国の司法修習生はおおぞら財団に研修に来ており、今年で9年目になります。今回は午前中に「日本のダム訴訟について」籠橋隆明弁護士が講演し、午後1時から「日本の環境訴訟と弁護士の役割」について、財団理事長でもある村松昭夫弁護士から講義をしました。



韓国の司法修習生と記念撮影



通訳を介しての説明・うまく伝わっていますように



真剣な表情で語り部の話を聞く研修生

今回の研修には、中国の環境行政を行っている方々が10人参加しました。

最初に簡単に西淀川公害とおおぞら財団の紹介を行ない、その後被害の話を公害患者会の永野千代子さんにしてもらいました。

息子さんが病気で大変だったこと、ご自身も慢性気管支炎で今も咳が続いて苦しいこと、公害健康被害補償法の大気汚染指定地域解除の時には環境省に座り込んで警備員からごぼう抜きされたことなどを話してもらいました。

その後財団の取り組みの紹介をしました。また西淀川公害患者と家族の会の岡崎久女さんが公害被害の訴え、会長の森脇君雄さんは西淀川の公害裁判の運動と経験について話をしました。寄せられた質問には、「困難な裁判が長期に続けたのは何がそうさせたか原因は?」「苦しい患者が西淀から他に移転しないのはなぜか?」「大気汚染が病気の原因だとなぜ分かったか?」「疲弊した地域再生、まちづくりをなぜ始めたか?」などがありました。

夜の懇親会には患者さんたちが作った料理

理がたくさん並び、修習生からは「日本に来て一番美味しい日本料理を頂いた」と喜ばれました。

公害経験の交流だけではなく、文化の交流も出来た意義ある研修・交流会になりました。

日本でも、中国でも、
まだまだ運動は続けなければ

2010年10月27日には2010年度JICA研修 中国・環境汚染損害賠償制度構築研修(※)を受け入れました。

眞鍋 麻衣子

その後、森脇君雄さんからは公害反対運動について、それから空気は見た目にはきれいになってきているけれども、子供のぜん息が増えていることなどを話しました。

研修生からは「88年の指定地域解除以降にぜん息患者は裁判を起こしていないのか」「二酸化窒素の環境基準が変更されているのはなぜか」などの質問がありました。指定地域解除後に東京で未認定患者の裁判が起これ、国と東京都には勝訴していること、二酸化窒素の環境基準が緩和されたのは、西淀川公害裁判の差止を無効にするためだったということ、とくにぜん息患者が増えているという事実、みなさん驚いていました。

ディーゼル自動車排ガスのSPMとぜん息の関係についてこれからも注意していかなければならないという森脇さんの言葉で運動がまだまだ続いていることを理解されたようでした。

おおぞら財団ではこの他にも、色々な国の研修を受け入れています。日本の公害経験とその後の運動や取り組みが交流されることで、世界の公害・環境問題に少しでも役立てていければと思います。

(まなべ まいこ・おおぞら財団研究員)

※JICA(独立行政法人 国際協力機構)環境汚染健康損害賠償制度構築推進プロジェクト
中国の国家環境保護部(MEP)及び関係機関における環境健康被害賠償制度に係る行政官、研究者等が日本の公害健康被害補償制度の形成過程、現状、法律体系及び関連の経験等を理解し、環境健康被害賠償に関する政策形成及び制度構築に必要な能力を強化することを目標とするプロジェクト。



自然の恵みを未来へ。

『生物多様性』？その危機って？

岡 秀郎

みなさん、『生物多様性』という言葉をご存じですか？なんと今年は国連の「国際生物多様性年」、10月には「生物多様性条約名古屋会議」が開かれたばかり。でも、多くの方は「…それって何？」かもしれないですね。

府内に生息する10%が絶滅の危機

生物多様性は、すべての生物の間の違いの多様さ（変異性）のことで、3つのレベル＝遺伝子・あらゆる種・様々なタイプの生態系Ⅱの多様さを示します。言い換えると、私たちヒトを含む生物の特性の多様さと、それらがつながっていること。実はこの豊かさから、私たちは生存基盤である酸素や水、食料や医薬品の原材料といった恵みを受け、いわばこの生命維持システムに生かされているわけです。ところが、ただ一つの種である私たちヒトがかつてない速度でこれを壊しており、地球6度目の大量絶滅の危機を招くと言われるほどです。例えば大都市・大阪府内に生息する約8700の動植物種では、いわゆる絶滅危惧種が約10%に上っているとされています。

その危機は、①開発や過度の採取、②人間活動の変化に伴う自然の変化、③外来種の侵入で、さらに地球温暖化の影響も深刻

化しています。

①の開発は、例えば府内の自然林の減少でみると、1960年の約33000haに対して2009年は約25000ha。消失面積は約9km四方に及び、JR大阪環状線内の範囲を二回り広げたほどの広大さです。これは自然林だけの消失で、多様性が注目されている水田などの耕作放棄地は例えば1995年当時570ha、大阪城公園外周内面積の4倍もありました。

放置里山、里地は国土の40%近く

②は、①とは逆に自然への働きかけが減ることによる危機。その代表例が、昔から薪や炭、肥料を得る農用林として活用してきた里地里山の放置です。化石燃料の普及などにより里地里山が利用されなくなった結果、それまでは様々な利用により多様な環境ができたために生きてきた生物が、放置による環境劣化で息できなくなったりしています。全国の放置林は10数万km²（1千数百万ha）とみられ、日本の国土38万km²のなんと4割近くを占める広大さです。

③の外来種は、地域的な生物相・生態系とは無関係に、人により本来の生息地以外へ移動した生物。アライグマやヌートリ

生物多様性・自然の危機 課題を考える思いつきワード（一部）

- 包括的な生態系保全の法・制度の充実
- 生物多様性基本法の充実強化
- 自然環境資源の開発型産業から保全型産業へのシフト
 - ・公共事業のシフト
 - ・保全型1次産業へのシフト
 - ・保全型産業のビジネスモデル化
→ 本業への導入 → 質的転換
 - ・CSRの取り組み
- 市民や国や行政、企業団体など様々な層の責務の具体化、強化

ア、魚のブルーギル、ウシガエルなど様々で、原因は放逐、放流、逸出、混入、付着など。高い運動能力、繁殖力を備え、競争相手がいないために在来生態系の構造・機能を変容させ、餌の生物の絶滅、近縁種との交雑による種の消失、農林業被害、疫病的被害などをもたらします。大阪でも特にアライグマは生息域を広げて、タカ類のヒナを食べるなど脅威の種に。淀川などの水域ではブルーギルなどが在来魚を脅かしており、ともかく「捨てない・入れない・増やさない」が大切です。

市民が身近に取りくめること

こうした危機への対策としては、まず、2008年に施行された「生物多様性基本法」を充実強化させるなどして、とりわけ開発されやすい里地里山などの生態系を面的に保護する法制度・政策を整備していくことが望まれます。他にも様々な対策が必要ですが、皆さんが身近に取り組めることを挙げてみますと：



セミのぬけがらカウント中

「まちのお医者さんになる」子どもと一緒に、西淀川の生物調査

小平 智子

- 自然観察会や自然体験に参加し、自然への関心を深め、守る意識を育てる
- 自然環境ボランティアの研修や養成講座などを受講する
- 里山や人工林の森づくりに参加する
- 水田の保全や復活活動に参加する
- 自然創生に関する活動に参加する
- 身近な自然やその動植物を調べる
- 自然保護団体に参加して活動したり、活

- 動を支援したりする
- 野生動植物を乱獲・乱採取しない
- 外来生物を増やしたり捨てたりしない
- 生物多様性・自然の危機は、私たち人間が起こした極めて複合的な問題です。豊かな生物多様性・自然の保護保全・回復は、ひと筋縄では実現できません。
- しかし、生物多様性とその危機は、私た

ち人類の外に在るものでも、傍観できるものでもないのです。それは、太古からの人類史も、今あなたのその生活も、この記事を読みながら生きていることも、生物多様性そのなか、生物多様性そのもの、だからです。

（おか ひでお・大阪自然環境保全協会 事務局長）

「まちのお医者さんになる」というシリーズで、春夏秋冬、季節に応じた環境調査を西淀川の子どもたちと一緒に取り組んでいます。春はタンポポ調べ、夏はセミのぬけがら調べ、秋はハゼ釣り大会、冬は空気の汚れ調べです。西淀川の未来をつくる子どもたちに地域環境の変化に気づく目を持つてほしいと、ガールスカウトや学童保育所の指導員、大学生等、子どもたちの活動の指導者と一緒に企画・運営をしています。

夏の「セミのぬけがら調べ」は、1999年から大野川緑陰道路（以下、緑道）で実施しています。西淀川で見つかるぬけがらは、クマゼミとアブラゼミの2種。クマゼミよりアブラゼミの方が自然の豊かな場所にも多くすんでいます。西淀川では、今はクマゼミが殆どですが、地域の古老が子供

の頃は、大きなクマゼミを捕まえたなら大金星、珍しいセミだったそうです。しかし近年、緑道でアブラゼミが増えていっているらしいということが、この調査結果よりわかってきました。ほぼ同条件（緑道内の場所・参加人数・日時）で調査をした2007、8、9年の結果は、アブラゼミの個数が2007年7個、2009年26個、2010年56個と、倍々でした。その他の年の結果を振り返っても、アブラゼミが10個以上見つかったのは2009年が初めてです。完成から40年近く経った緑道の樹木が成長したことも関係しているのではないかとのご指摘を専門家から頂きました。来年の調査が楽しみです。公害に苦しんだまち、西淀川の子どもたちの使命として、代々受け継ぐ活動にしていきたいと思っています。

また、調査結果は「大阪府身近な生物調

査等」、各地の活動を集約している団体に知らせています。そうすることで広域的なセミの分布を知ることができ、我々の西淀川地域と比較もできます。

今年は10月に生物多様性条約COP10が名古屋で開催されたことで、生物多様性問題の課題が大きく取り扱われるようになってきました。子どもたちが今後、地球規模で叫ばれる「生物多様性」の課題に向き合う時、「西淀川ではクマゼミが多くアブラゼミが少ない」という気づきが、理解の促進と行動へつながると信じています。

（おだいら ともこ・あおぞら財団研究員）

年度	1999年度	2005年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
実施日	8/24	8月の20日間	8/18	8/28	8/18	8/17
クマゼミ	111	9148	913	240	1416	1794
アブラゼミ	0	7	7	0	26	51
合計	111	9155	920	240	1442	1845

大野川緑陰道路 セミのぬけがら調べ結果

ほっと ニュース

第14回道路連絡会の開催

11月2日に、道路沿道環境に関する連絡会（第14回）が行われました。約100名が参加し、①大型車と交通量の削減、②歩行者・自転車にやさしい沿道対策・交通環境対策、③PM2.5の環境基準設定の早期達成に向けた対策、④歌島橋交差点における歩車分離型のスクランブル交差点について討議されました。

しかし、国土交通省側からは、現状の対策を継続していくとの返答のみで、環境ロードプライシングの拡充や歌島橋交差点のスクランブル交差点化などに対する具体的な返答はもらえませんでした。

あおぞら財団および患者会は、この意見交換をこの場だけで終わらすのではなく、西淀川地域の道路沿道環境の改善に具体的につなげるために、継続して交渉していく予定です。

サイクル&エコカーニバルを開催しました

サイクル&エコカーニバルin池田を宣真高校で11月7日（日）に開催しました。あおぞら財団は交通ルールと自転車の正しい乗り方を知ってもらうため、チャリンコチャレンジという自転車競技を行いました。競技内容は、間隔判断、スラローム走行、8の字走行の3つ。間隔判断とスラローム走行は、多くの方がスムーズにクリアしましたが、8の字は難しかったようでペットボトルを1本も倒さずにクリアした人は約200人中6人でした。自転車は環境にや



8の字 倒さずに走れるかな



みんな大阪のタマネギを買ってね

フードマイレージ紙芝居が出来ました！

小さな子にもフードマイレージのことを知ってほしい！ということで、紙芝居をつくりました。はじめてのおつかいに行った

さしい乗り物ですが、マナーを守って人にも優しい乗り物として利用してくださいね。

ミホちゃんが、タマネギさんの協力を得ながら、環境に優しい食材を選ぶというストーリーになっています。11月には大阪もののコーナーがある

イズミヤ和泉中央店でイベントを行いました。タマネギに扮した職員が紙芝居をしにあなたの町にも現れるかも？！

リレーエッセー

私にとって、一番心にくる食べ物、おにぎり、なんだろうな、と思う。
小学生の頃、遠足とか運動会のお楽しみはお弁当で、天むすとか、明太子のおにぎり、とか白いごはんは必ずおにぎりになっていて、遠足の詳細は記憶にないのだけれど、天ぶらのたれがよく染み込んだ天むすのごはんの感じ、はよく覚えている。

マイ・ソウルフード

森田 紗世

て、お茶碗のご飯と一緒に、と思うくらいおいしかった。
大学生の頃は、小樽で鰯屋に行つて酔つ払つて、目が覚めたら、知らない喫茶店で椅子を並べて寝ていて、マスターらしきご婦人が朝食におにぎりを出してくれた。食べるころとごはんがこぼれるおにぎり、たまに鰯屋で隣になつて一緒に飲んでいたら泊まるころはまだ決めてないみたいだったからうちに、といつて見知らぬ学生を泊めてくれたというご婦人のお人柄が、ほろほろとしたおにぎりによく合っているなあ、と思った。
と、つらつらと、おにぎりについて思い出していると、きりがないうように、だから、やっぱり、おにぎりとは私、きつても切れない縁があつて、私のソウルフードはおにぎりなんだろうと思う。ただ、問題は、おにぎりは自分で握つても、何だか心にこないだ。
(もりた さよ・あおぞら財団研修中)

1日(金)	西淀中学校展示 資料館スタッフ会議
2日(土)	矢倉海岸定例探鳥会 大阪府環境整備エコミューズ訪問
3日(日)	大阪でタンDEM自転車を楽しむ会 in 大川沿 佃島船着きあひいフェスタ (参加) 水都大阪2011の水といのちの賑わい文化都市づくり (参加：藤江)
5日(火)	軒先そうじの日 連絡会事前説明会 西淀川再生研究会 事務局会議
6日(水)	広報会議 1階改修工事進捗説明会
7日(木)	第1回環境と観光をつなぐ研究会 (出席) あおぞらプロジェクト幹事会 新公益法人相談会 (参加)
8日(金)	ぜん息患者懇談会 1階改修工事進捗説明会
9日(土)	佃島合 体育祭 (参加)
11日(月)	事務局会議
12日(火)	バイオディーゼルのアドベンチャー山田周生氏来訪
13日(水)	西淀川ESD会議 ECOまちネットワーク・よどがわ会議 (参加) 物流環境管理士講座 (講師：藤江)
14日(木)	てづくりせつげん教室 東大阪市まちづくり助成審査会 (藤江)
15日(金)	神戸シルバークレッジ授業 (講師：上田、小平)
16日(土)	道路連絡会事前説明会 淀川観光フェスティバル
17日(日)	ESDコーディネーター養成講座 中央区民まつりにて「自転車の達人」コーナー (協力)
18日(月)	ESDコーディネーター養成講座
19日(火)	第3回公害・環境アワー第2回実行委員会
20日(水)	事務局会議 緑陰道路サロン世話人会
21日(木)	西淀川道路検討会 北海学園大学浅妻ゼミ来所
22日(金)	1階 改修工事 西淀川公害患者と家族の会総会
23日(土)	西淀川交通まちづくり会議④ なかよしプラザふれあい祭
24日(日)	道路公害反対大阪連絡会シンポ (参加)
25日(月)	事務局会議 常務会
26日(火)	自転車寺子屋 panasonic・NPOサポート面接
27日(水)	日本司法修習生受け入れ JICA 中国・環境汚染損害賠償制度構築研修受け入れ 公害をなくす会まちづくり委員会
28日(木)	資料館定例会議 滋賀県立大学フードマイレージ (講師：林)
29日(金)	道路環境市民塾
31日(日)	環境フロンティア講座 京都市上京区WS

10月

事務局日誌

11月

1日(月)	軒先そうじの日 東大阪市新池島町WS (講師：藤江)
2日(火)	事務局会議 将来構想委員会 道路連絡会
3日(水)	ぜん息患者懇談会 西淀川図書館展示搬出
4日(木)	子ども参画べんぎょう会 今宮高校授業 (講師：林)
5日(金)	あおぞらプロジェクト幹事会 (出席) 公害をなくす会ニュース編集委員会 (出席) ボランティアの日 リベラ発送 エコ・安全ドライブ講習会 ECOまちネットワーク・よどがわ編集会議
6日(土)	矢倉海岸定例探鳥会 フードマイレージ教材化研究会
7日(日)	西淀川高校文化祭 大阪歴史学会近世史部会受け入れ エコフェスタ in エキスポ(出展) サイクル&エコカーニバル
8日(月)	小学校校長会
9日(火)	事務局会議
10日(水)	広報会議 ECOまちネットワーク・よどがわ (出席)
11日(木)	神戸市シルバークレッジ (講師：上田、小平)
12日(金)	資料館スタッフ会議 神戸市シルバークレッジ (講師：上田、小平)
13日(土)	環境フロンティア講座 西淀川交通まちづくり第三回 フードマイレージメディア連携環境省ヒアリング エネルギーシンポジウム (参加)
14日(日)	ぜん息患者懇談会
15日(月)	第3回公害・環境アワー第3回実行委員会 (出席)
16日(火)	よどがわ市民生協エコミューズ見学 事務局会議
17日(水)	西淀川ESD会議 京都産業大学准教授の村勝俊氏ヒアリング 泉南アベスト第1回控訴審 (参加)
18日(木)	資料館定例会議
19日(金)	あおぞらプロジェクト大阪 大阪府懇談会(参加)
20日(土)	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会 (参加、～25日)
21日(日)	市民が導く温暖化防止2010 (参加、～21日)
22日(月)	フードマイレージメディア連携イベント イズミヤ和泉府中店 事務局会議
23日(火)	資料館スタッフ会議 エコドライブ事務局会議 (出席)
24日(水)	道路環境市民塾 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会 (参加、～25日)
25日(木)	中央区自転車検討会 自転車寺子屋
26日(金)	ぜん息患者懇談会 中国の環境NGO李力氏、張氏、張氏来日 (～30日)
27日(土)	李氏、張氏、西淀川区及び西淀川高校視察、模範授業 白中における公害・環境問題に関するワーキング会議 ぜん息患者懇談会
28日(日)	日中環境問題サロン2010 地球環境基金助成団体報告会 (報告：林)
29日(月)	李氏、張氏、西淀川公害患者の家族の会と懇談、(株)エイワット視察、藤永のぶ氏と懇談
30日(火)	事務局会議 あおぞらプロジェクト大阪総会(出席) 常務会

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会

(日本野鳥の会大阪との共催)

日時 1月8日(土)、2月5日

(土) 午前9時30分～午前

11時30分頃

集合 阪神なんば線「福」駅改札

口 午前9時30分

場所 矢倉海岸公園

あおぞら財団「ボランティアの日」
日時 1月7日(金)、
2月4日(金)

場所 あおぞら財団事務所内

(例外あり)

時間 午前9時30分～午後5時30

分(応相談)

第39回公害環境デー

日時 1月29日(土) 午後1時30

分

場所 エルおおさか南館5階ホール

お礼

(2010年10月・11月 敬称略)

●寄附・寄贈者

天野憲一郎、上田敏幸、上田長生、
大阪歴史博物館、片岡直樹、環境
省、金盛子、小坂茂樹、新地島

街づくり研究会 篠原正、(株)すい

れん舎、諏訪哲郎、豊中市、西村

勝男、西淀川公害患者と家族の会、

松富謙一、宮崎悦子、村松昭夫、

山田喜美子、山本元、緑色竜江

●お助けボランティア参加者

おねがいとおしらせ

リベラへのご意見・ご要望または投
稿をお待ちしています。また、メール
通信「あおぞらEXPRESS」を開
設しています。ぜひご利用下さい。
配信を希望される方は

[http://groups.yahoo.co.jp/
group/aozora-mail/](http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/)

から登録できます。

●入会ありがとうございました
島村 健

伊佐華子、大野みさ子、柏原純夫、
栗俣恒平、小坂茂樹、田村憲佑、
林野隆彦、原潤、東堀優、前田浩
輔、増田一喜、松富謙一

【編集後記】 イコバの看板はドングリで作っています。これはドングリを地域
住民に見立てて、イコバは住民(ドングリ)
が集まって形になっている様子を表現してい
ます。

そのドングリはもちろんメイドイン大野川緑陰
道路。寒風の中、ドングリを集めていると、「あっ
ちにいっぱいあったで」と何人かの方に声を
かけてもらいました。住民のあたたかさへ支え
られていることを実感しました。(K)



『Libella』No.118 2011年1月号(隔月1日、年6回発行)

発行所 (財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)

編集人 眞鍋麻衣子

大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階

Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885

<http://www.aozora.or.jp/>

E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション

定 価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。

郵便振替口座 00960-9-124893 (加入者名 あおぞら財団)

乱丁・落丁はお取り替えします。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



キン
レイ
金 玲

中国瀋陽市出身、中国政法大学法学部卒業後 2003 年来日。
関西大学法学研究科で学ぶ傍ら通訳の仕事を通じてあおぞら財
団と出会う。現在は関西大学非常勤講師。言葉の微妙なニュア
ンスをできるだけ正確に伝えるよう心がけている。

Never too late to learn

「ノリっつこみ」もわかる

早いもので今年、2011年の4月で
日本に来て丸8年となる。もはや第2の
故郷といえる大阪で8年も生活すれば、
当初標準語だった日本語も関西弁となり、
簡単な『ノリっつこみ』さえできるよう
なってくる。…ノリっつこみについて
は言語の習熟とは関係ない要素も多分
あるかも知れないが、最近では日本に
来てもない頃の未熟で滑稽な言葉遣い



い出して、一人思い出し笑いをすること
もある。

例えば、飲食店でアルバイトをしてい
た頃、原付で来店されたお客さんがヘル
メットをカウンターに忘れて帰ろうとし
たので、ヘルメットを抱えて店外までお
客さんを追いかけて、「すみません、帽子
を忘れましたよ!」と一言。その時のお
客さんの顔がいまだに忘れられない(笑)。
他には、職場の同僚が鉛ちゃんを床に
落としたのを見て、「保証がついている
から大丈夫」と私が言ってしまったこと
もあった(本当は包装がついているから
大丈夫と言いたかったのだが)。

美容豆腐?

今ではこのような初級レベルのミスは
しなくなったが、最近もドキッとした出
来事がある。

2010年11月27日、あおぞら財団が
中国のNGOの方2名を招き、午後から
京エコロジーセンターでの講演会を予定

していた。私はその通訳を担当すること
となり、午前中時間があつたため、もう

一人の通訳と4人で京エコロジーセンタ
ーの岩松氏にセンターを案内してもらう
ことにした。当日は土曜日だったため、
子供たちが屋上の菜園から野菜を収穫す
る様子も見ることができ、太陽のエネル
ギーを利用した冷暖房施設の説明も受け
た。場所を移動し、岩松氏が「これはビ
オトープです」と次の場所を案内してく
れた。一瞬、「うん?何?美容豆腐?美
容にいい豆腐?それって、何?」と思っ
たところに、岩松氏が「これはさまざま
な生物が息づく空間のことです、われわれ
が手作りの場所です。」と補足説明を
してくれた。危うく「美容豆腐」と誤し、
また大恥をかくところだった(汗)。日
本語は奥が深いなあと再び実感した瞬間
だった。

言葉を間違えて失敗することもしばし
はあるが、今も懲りずに日々、日本語の
勉強に精進している。